

黒田24騎小傳(1)

はじめに

400年の時空を超えた今でも、我々の「NPO法人 福岡城市民の会」の事務局に、筑前52万3千石を築き、支えた人達の子孫の方々が、先祖の雄姿を求めてお訪ねになり、貴重な資料を持参して、身分の上下を問わず、遺徳や武勇を讃えられる。

その歴史を語る資料の一つに、「黒田24騎銘々傳」がある。6代藩主継高公が、黒田52万石の武功高い君臣の物語の記述を家臣の原種次に命じたことに始まるといわれている。

継高公は、豊臣秀吉の文禄・慶長の役(1592～1598)の折りに、軍功著しかった当時の侍大将24名を選び出して、後生に伝えるべく略傳をまとめさせた。

継高公は、黒田家支藩の東蓮寺藩4万石(今の直方市辺り)の当主であったが、黒田本家の血統を継ぐため、本藩52万石の当主として迎え入れられた。当時、黒田藩領は災害が多く、苦難な時期であったが、善政を行った藩主である。

更に、10代藩主成清公も家臣の牛尾辰之丞久照に命じて、24家のゆかりを、より深く、詳細に時系列にまとめさせた。その24騎傳には、当時の家老職であった林五郎左エ門直統の書付が添えられている。

更に、24騎の肖像画を巻物にし、また各家に残る甲冑や如水・長政両公の書状の写し等も調査をして、先人の功しがよくまとめられている。

その完成年については、「文政3年(1820年)秋、草稿成る」と記されている。

「黒田24騎図」



次ページ



「黒田24騎」 佐伯氏（江戸時代後期 19世紀）

福岡市博物館所蔵